

福島県PTA連合会会報  
第81号\_H22.03.08

# PTAふくしま

## 第81号

福島県PTA連合会  
編集/調査広報委員会  
印刷/泉印刷所

### 「活動スローガン実践」より



「サマーフェスティバル2009」  
～地域の人々や学生ボランティアとの  
活動を通して～



#### 《主な記事》

- 各地区だより～特色あるPTA活動～ P 2～3
- テレビの見方などについてのアンケート結果 P 4～5
- 第33回子ども災害事故防止習字・ポスター展 P 4～5
- 事務局より P 6

〔提供 福島大学附属特別支援学校 PTA〕

## 「手間」をかける



福島県教育庁社会教育課長

沢 宏 一

子どもの成長は、驚くほど速いもので、一年間に十数センチも身長が伸びることもありますし、たった一日の経験を通して、見ちがえるほど成長した姿を見ることがあります。小学校や中学校時代というのは、人生の中で一番成長する時でもあるのです。

この子どもの成長の一番大きい時期に、PTAという立場で学校に関わることは、実は、大変なことであり、手間もかかることではないでしょうか。

さて、私が以前小学三年生の担任をしていた時のエピソードを一つ紹介させていただきます。

米飯給食の時のことです。「先生ご飯が残っているから、おにぎり作ってください。」と一人の子どもが私に頼んできたのです。「ああ、いいよ。」私は、手を洗いに行きました。教室に帰ってきてびっくり。子どもたちは行列をなし

て並んでいました。早速慣れない手つきで握りました。しかし、いくら丁寧に握っても、お母さん方のように三角にはいきません。おまけに、塩をかけすぎて「しょっぱい。」という悲鳴も聞こえてきました。それでもおにぎりは、あつという間に売り切れました。それから三日後。また米飯給食でした。まさかと思っていた「先生、おにぎり。」という声が教室に響きました。

ところで、普段なかなかおかわりをしない子どもたちまで、おにぎりの行列に加わったその魅力は何だったのでしょうか。勿論、私の技術でもなく、味でもありません。もしかしたら、それは「手間」だったのかもしれない。皆さんのPTAの仕事も、「手間」のかけるところです。しかし、その手間こそが子どもの成長にとって大切なものであると信じています。

# 各地区だより 〜特色あるPTA活動〜

## 子どもと向き合い、子どもの夢や願いを大切にしているPTA活動

石川郡連合PTA会長  
車田雅一

将来に向けての夢や希望を持って活動できる子どもたちを育てていくことは、子どもたちが自分の夢や希望の実現に向け、自ら道を切り開き、生きる力を高めていくことに結びつくのでとても大切なことです。そのためには、私たちPTAが果たす役割はとても大きいと思います。石川郡連合PTAでは、毎年PTA研究大会を開催し、研鑽を積んでいます。本年度は、八月九日に、玉川村文化体育館において約二百名の参加のもと、大会を開催しました。パネルディスカッションでは、五町村の代表がパネラーとなり、「子ども



熱く語るパネラーの方々

の夢や願いを大切にしたい家庭、地域への関わりについてディスカッションをしました。そ

の中で、次のような意見が交換されました。

- ・親が子どもの生き方をプランニングしていることが多い。
- ・子どもがプランニングし親が見守る姿勢を持つことが大切である。
- ・子どものピンチヒッターやリーフは親はできない。
- ・子どもに自己決定をさせることにより、親がそれを応援していくことが大切である。

また、今回は、参加している多くの会員からもディスカッションに参加する方式を取り入れたため、多くの参考になる意見を聞くことができました。会場は、熱気に包まれ、大いに盛り上がりました。

その後、「子どものやる気や育てるための親の効果的な関わり方」と題して親業訓練協会インストラクター鈴木みどり氏を講師に招き講演会を行いました。子どものやる気を育てるには、子どもの話を聞く時の親の姿勢が大切であることを理解してもらうために、参加者にロールプレイングをさせて、実感してもらうなど大変意義のある講演会でした。この研究大会の成果を各単Pや各町村Pに持ち帰りそれぞれに実践しています。石川郡連合PTAは、このようにして課題の共有化

を図り、子どもの夢や願いを大切にするための活動を行っています。私たちは、二十一世紀を生きる子どもたちが、夢と希望を持ち、たくましく生き抜くことができるよう、学校・家庭・地域が手を携えながら積極的に子どもに関われるよう努力していきたいと思っ活動しています。

## 親と子が共に育つPTA活動を

川内村立川内小学校PTA会長  
猪狩 幸

本校は、阿武隈高地ほぼ中央に位置する川内村に、平成十六年、三つの小学校を統合し創立されました。創立当初は、これまで行なってきた各学校独自の活動と保護者の方々の思い入れが強く、PTA活動が空回りすることもあったのを記憶しています。しかし、これまでの六年間の歴史を経て、川内村全体の子どもたちをPTAだけでなく、地域全体で育てようとする方向へと意識が変ってきたことを実感しています。今回は、このような本校での取り組みの一部をご紹介します。

子育てを、地域と連携して行なっていくため、学校行事に地域の人たちにも参加していただく企画を学校と一緒に考えました。今年度の運動会は、村に住むおじいさん、おばあさんたちにも参加していただく種目をつくったり、地



畝作り・地域の方々と一緒に

域対抗種目を取り入れたりと、大勢の地域の方々とまきこんだものになりまして。実際に参加していただく、「楽しかった。あそこの子はあんなにたくましくなったんだね。」という声が聞かれ、子どもたちの成長と一緒に体感していただくよい機会となりました。

また、先生方と保護者、そして保護者同士にも、今まで以上にいろいろなことを話し合える雰囲気芽生え、仲間意識と連帯感の向上につながったと実感しています。

さて、本村にはIターンで移住してきた方々が多数いらっしゃいます。川内小学校では、その方々に米づくりや野菜、つくりのご協力をいただいております。このような活動を通し、思わぬ効果が表わりました。Iターンの方々や地域のおじいさん、おばあさんを誘って学校へおいでいただくことが多くなつたのです。その結果、地域の方々と子どもたちのふれあう姿

ちの、お話の花いっぱい農園ができあがりました。

まとめになりますが、PTA活動を通じ感じることは、「子どもたちは悪くない」という一言に尽きると思います。我々おとなの都合と無関心から、子どもたちの環境が以前と変わっているだけであり、その環境を少しだけでも改善してあげれば子どもも変わるので、このことを保護者、先生方、地域の方々に理解していただき、協力し合えれば、子どもたちが安心して学び、遊べる環境ができる

と信じています。私たちPTAは、周りのおとなたちをまきこんで子どもを育てなければ、大きな成長は期待できないことに気がつき、遠慮することなく関わり合うことが必要だと考えます。人と人との関わりが情報共有し、問題を解決し、笑顔のある学校づくり、地域づくりを実現できる近道と考えています。

が以前にも増して見られるようになりまして。子どもたちが地域の方から作物のつくり方を学び、共に汗を流し、収穫を祝いました。野菜の花と、おじいさん、おばあさん、そして子どもたち

### 子と親が共に育つPTA活動

川俣町立飯坂小学校PTA会長  
菅野 智

本校は、県北地方、伊達郡の東側、隣を相馬郡飯館村に接する農村地帯に位置する学校です。祖父、親、児童と三世代で暮らす家庭が多く、保護者の多くが本校の卒業生であり親同士もお互い顔見知りが多くコミュニケーションを取りやすいことも特徴です。本校も少子化の影響を受け、全校児童が八十二名の小規模校でPTA会員数六十三とPTA活動を実施する際には全会員の協力が不可欠であります。そのためほとんどの会員が何かしらPTAの役員となっているのが実状です。

仰ぎ全児童が自宅に飾る正月のしめ縄を作成します。これらの会の運営は、小規模の学校のため先生方や児童だけでは準備も大変ですが、PTAの役員や保護者の皆さんのおかげで児童にとつて充実した活動が行われております。

「親の背中を見て子どもは育つ」と言われていますが、特に最近の保護者は会社勤めが多く、児童は普段親の働く姿を目にする機会が少なくなつてきています。PTA活動に積極的に参加することで「親の働く姿」を見せることができます。親の奉仕する姿を見た子どもへ良い影響がないはずはありません。また、PTAのどの活動も子どものために行っているわけですが、結果としてPTA会員同士のコミュニケーションの活性化を促進させる働きにもなっています。最近実施した保護者に対するアンケートでは本校教育活動への要望ベスト3は、①学力の向上②道徳性の向上③体力の向上となつ



しめ縄作り

ておりました。これは、新しい指導要領が唱える「生きる力」そのものです。私たちPTA会員が子どもたちの教育活動を支えることで、子と親が共に育ちそれぞれが成長し「生きる力」を身につけることができると考えます。

最後に、PTA会員数の減少により会員一人一人にかかる負担が増してきておりますが、PTA行事の精選や見直しを図り、今以上に「親と子が共に育つ」PTA活動の充実に入力を入れていければと考えております。

### 南会津町立田島小学校父母と教師の会会長

渡部 英明

南会津町は、福島県の南西部で栃木県との県境に位置しています。平成十八年三月二十日に田島町・館岩村・伊南村・南郷村が合併して誕生しました。鎌倉時代に長沼氏の所領として嶋山城が築かれ、江戸時代には、幕府直轄「天領御蔵入」となり、その後も会津西街道の主要宿場町として栄え、東北地方の南の玄関口となる地域です。

また、会員は「協力する」のではなく、自ら「取り組む」ことを共通の認識として活動しております。家庭と学校と社会とがその教育責任を分け合い、力を合わせて子どもたちの幸福のために努力していくことを念頭に、家庭と学校、そして地域社会を結ぶ懸け橋としてのPTA活動、共に学び共に高めあうPTA活動を心がけてまいりました。

本校は、南会津町の中心地に位置し、児童数は約三百人です。『ここにこ 元気 ありがとう』をPTAのスローガンに活動を展開しております。「いつも朗らかで、思いやりがあり、前向きな姿勢」「健康で明るく、いきいきと日々

こうしたいのなかで、PTA総会等会合の出席率を向上させる取り組みとして、低学年の児童や未就学児を総会中に学校の教室でお待ちしております。託児制度を〇七年度から実施しております。また、毎年六月中旬には、PTA役員や校長、教頭、地区担当教諭が学区の十七地区に出向き、総会ではなかなか話し合えない具体的な内容について、会員の皆さんと懇談する「地区懇談会」を九六年度から実施しております。毎年多くの積



地産地消の授業の様子

極的、建設的なご意見、ご提案をいただいております。それらを実現するための取り組みや行政への働きかけなど、できることはすぐに、時間を要する案件は粘り強く継続的に取り組んできたところです。

〇九年度は、地元特産のアスパラガスや南郷トマトを生産している農家の方を六年生の授業に招き、栽培の様子などを話していたいただきました。そのあとの給食では、手塩にかけて育てられた野菜を農家の方と一緒に食べました。ほぼすべてが福島県産の食材で、旬の野菜をふんだんに使った味噌汁の具はすべてが会津産です。生産者の話を聞き、顔を見ながら口にすると野菜は一味違います。大地の恵みと生産者の真心に「ありがとう」の給食となりました。

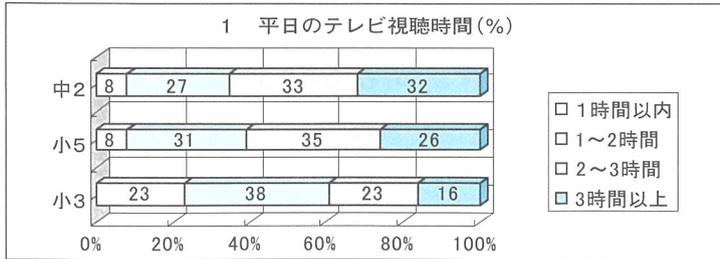
今後も家庭、学校、地域社会がゆるぎない連携のもとで、子と親、さらには教職員や地域が共に育ち、「ありがとう」が広がる活動を展開していきたいと思っております。

# テレビの見方などについてのアンケート結果(速報)

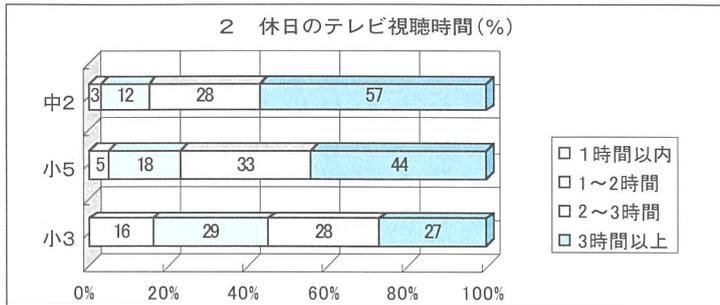
## 健全育成委員会

今年の一、各都市P連の皆様にご協力いただき、健全育成委員会でテレビ視聴やゲーム、食事の時間の家族とのかかわりなどを中心とした、「児童生徒の健全育成に関するアンケート」を実施しました。その集計結果が、二月の評議員会で報告されました。その一部を速報の形でお知らせいたします。この結果から、「親子の絆」のあり方を考える資料として立てていただきたいと思います。(なお、詳細につきましては次号でお知らせいたします。)

1 あなたは、平日(月曜日から金曜日)は、どのくらいの時間テレビを見ますか。

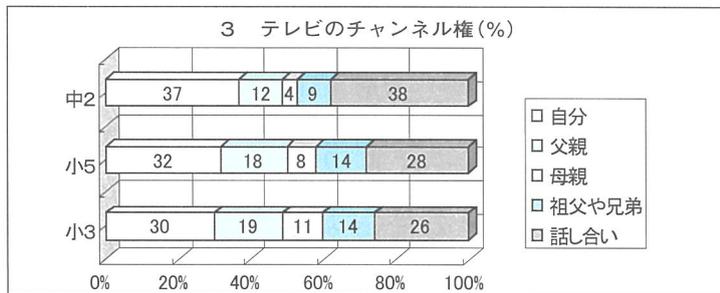


2 あなたは、休みの日(土曜日・日曜日)は、どのくらいの時間テレビを見ますか。



(考察) 平日、休日とも学年が上がるにつれて、テレビを見る時間が多くなっている。中2では休日3時間以上テレビを見ている生徒が6割近くいる。

3 あなたがテレビを見るとき、チャンネル権(見る番組を決める)は、だれが持っていますか。



(考察) 約3割から4割の子どもがチャンネル権を持っていると答えている。学年が進むにつれて、子どもがチャンネル権を持ったり、話し合いで見る番組を決めており、逆に父親や母親の割合が下がっていることが見て取れる。

### 第33回子ども災害事故防止習字・ポスター展

三十三回を数えた今回も、温かいご支援とご協力をいただき開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。関係の先生方のご理解・ご協力に感謝いたします。

#### 習字の部入賞者

##### ▼小学校の部

- ◆最優秀賞(一年) 飛田日向(好間一)(二年) 渡辺 壮(平一)(三年) 佐藤真衣(五箇)(四年) 高橋康介(五箇)(五年) 齋藤みゆね(大平)(六年) 稲川友菜(棚倉)
- ◆優秀賞(一年) 蓬田真唯(小原田) 佐藤千倅(大甕) 井上 碧(原町二)(二年) 栗田 拓(猪苗代・吾妻) 増田篤実(松山) 工藤 萌(好間二)(三年) 齋藤龍斗(大平) 薄井桃香(須賀川三) 近藤一真(羽太) 緑川遥斗(高平) 木田みのり(好間一)(四年) 佐々木優佳(仁井田) 安藤優太(矢吹) 渡部大輝(長瀬) 伊賀美咲(原町一) 荒木優香(平一)(五年) 小林千夏(三神) 佐川英里華(棚倉) 今井李音(平一) 遠藤愛奈(小名浜) 木田 衛(好間二)(六年) 松本光世(三春) 佐藤晴佳(五箇) 渡邊史子(荒館) 中村くるみ(南郷二) 大内亜美(いわき・草野)
- ◆優良賞(一年) 瀧口楓香(須賀川一) 和田佳純(白河三) 齋藤和奏(五箇) 高野愛香(川南)(二年) 佐藤み

七か  
とびたひなた  
▲小1年 好間一小 飛田 日向さん

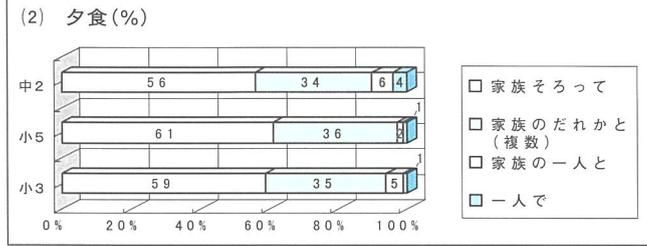
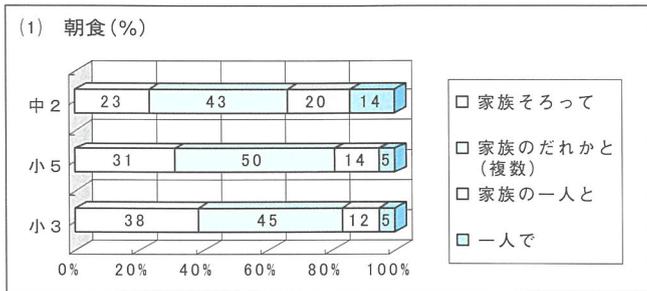
道具  
稲川友菜  
▲小6年 棚倉小 稲川 友菜さん

防災  
河東中 矢野桜  
▲中1年 河東中 矢野 桜さん

お(野田) 大関順也(大平) 岩本梨沙子(白河三) 杉原ほたる(城南)(三年) 吉野可那子(庭塚) 斧田千明(須賀川一) 森本颯太(白河一) 小島菜

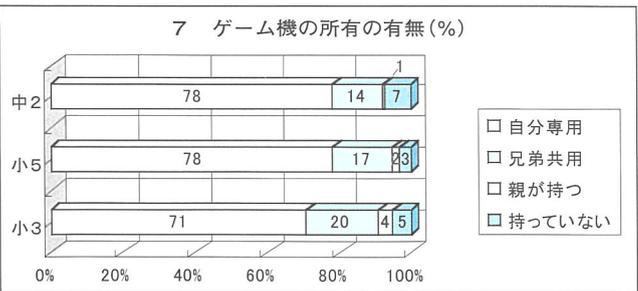
審査の先生方(敬称略)  
○習字  
佐藤 一男(元清明小教諭)  
丹治 英郎(元福田小校長)  
鈴木 幸子(元蓬萊小教諭)  
○ポスター  
武田 德行(元渡利小校長)

13 食事をするときはだれと食べますか。



〔考察〕朝食は3割、夕食は半数以上の子が家族そろって食事をしている。夕食は家族の複数と一緒に食事をしているが、1人で食事を取っている子も少数であるがどの学年でも見られる。

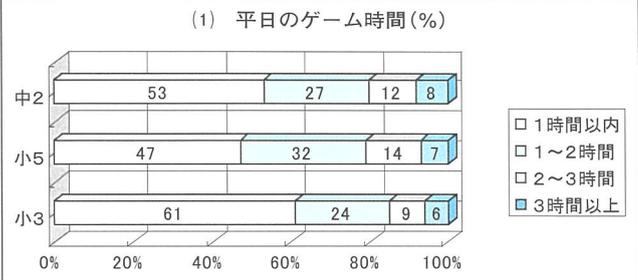
7 あなたはゲーム機を持っていますか。



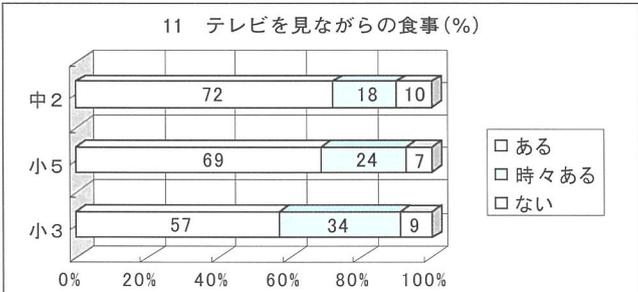
〔考察〕8割近くの子が自分専用のゲーム機を持っており、親が管理しているのは、小3で4%、中2では1%だけである。

8 自分のゲーム機を持っている人に聞きます。

(1) あなたは、平日(月曜日から金曜日)は、どのくらいの時間ゲームをしますか。



11 食事をするとき、テレビを見ながら食事をすることがありますか。



〔考察〕テレビを見ないで食事をするのは、各学年とも1割程度である。

今回のアンケートで、あきらかに変わったこと

- テレビの視聴時間は、学年が進むにつれて多くなり、休日はさらに多くなる。
- チャンネル権をもつ子が約3割である。親のチャンネル権は、学年が進むにつれてだんだん低下し、話し合いで見ると決める割合が高くなる。
- 約3割の子が自分の部屋にテレビがある。
- テレビを見ない日を決めている子はほとんどいない。また、ゲームをもたない子も少ない。
- ゲーム機をもっている子は、毎日ゲームをすることが多く、休日に三時間以上ゲームしている子が二割にのぼる。
- 家族と食事する子は多いが、大部分テレビを見ながら食事している。
- 学校のことや趣味のことを母親やきょうだいに多く話し、父親と話す子は、母親の五分の程度である。



▲小4年 謹教小 皆川皓紀さん



▶中一年 江名中 榊原まるみさん

- ▼小学校の部
- ◆最優秀賞(一年) 関口菜々子(須賀川二)
  - ◆二年 吉田莉菜(夏井一)
  - ◆三年 関根沙夏(須賀川・大森)
  - ◆四年 皆川皓紀(謹教)
  - ◆五年 大竹 緩(羽太)
  - ◆六年 鈴木冬生(中畑)
  - ◆優秀賞(一年) 磯貝優花(白河一)
  - ◆二年 圓谷花衣(白河一)
  - ◆三年

- ▼中学校の部
- ◆最優秀賞 (一年) 榊原まるみ(江名)
  - ◆優秀賞 (二年) 佐藤希美(矢祭)
  - ◆優良賞 (三年) 小濱明日香(矢祭)

- ポスターの部入賞者
- 子美(白河三) 佐川雅晃(棚倉) 高嶋優希(川南) 山崎暉紗(平一)
  - 四年 鈴木里歩(富田西) 宮尾京佳(白河一) 栗城朋佳(川南) 緑川莉奈(高平)
  - 金澤菜々子(平一) 木村早紀子(平三) 青木奏海(いわき・草野)
  - 五年 佐藤春希(庭塚) 石田恵理(岳下) 柳沼絵莉(須賀川二) 阿部夏海(柏城)
  - 星 成美(西郷・熊倉) 高嶋優汰(川南) 渡辺昂二郎(いわき・草野)
  - 六年 神田詩歩(庭塚) 本多 照(旭) 中澤夏織(白河二) 佐藤倫子(西郷・熊倉)
  - 吉川優衣(日新) 伊賀健

- 大(原町二) 船山志帆(勿来二)
- ▼中学校の部
- ◆最優秀賞(一年) 矢野 桜(河東)
- ◆二年 星 結衣(西袋)
- ◆三年 二階堂綾乃(福島・吾妻)
- ◆優秀賞(一年) 藤田叶子(白河二)
- ◆二年 鈴木愛里(棚倉)
- ◆三年 小川真季(高田)
- ◆優良賞(一年) 渡辺千聖(都路)
- ◆二年 大山汐穂美(伊南)
- ◆三年 佐藤若菜(河東)
- 岡部修知(須賀川二)
- ◆四年 福田友郎(中畑)
- ◆五年 高橋勇太(謹教)
- ◆六年 正木 蓮(中畑)
- ◆優良賞(一年) 上野祐太(喜多方一)
- ◆二年 西尾彩花(平一)
- ◆三年 高橋わか(仁井田)
- ◆四年 積田 連(日新)
- ◆五年 渡邊百音(相馬・山上)
- ◆六年 蘭部 優(小玉)

### 安全互助会から

すでに平成二十二年度安全互助会への加入案内をしたところですが、二十二年度からの変更点も含め、再度お知らせいたします。大きく変わる点がありますので、ご理解・ご協力お願いいたします。

#### ◎今後の日程等

○加入申し込み締切

……三月十日(水)

※まだのところがありましたら

お急ぎください。

○「会員証」「事務取扱概要」の送付……四月上旬

※このとき、保護者向け案内、四月一日以降の事故報告用紙

### 平成22年度研究大会等の予定

月	主 な 行 事	
6	県P小・中懇談会	24日(木)
8	日P研究大会ちば大会	27日(金)
		28日(土)
9	東北P研究大会八戸大会	11日(土)
		12日(日)
	県P母親代表懇談会	16日(木)
10	県P研究大会白河大会	17日(日)

も送付します。

○会員納入……五末日

○会費引落とし

……六月四日(金)

※ただし、口座引落しの手続きをしている学校・園のみ  
※新たな会費の口座引落しを希望される場合は、本会宛にご連絡ください。

#### ◎事故報告について

① 傷害、賠償とも、事故が発生したら速やかに報告書を本会宛に郵送してください。

四月一日以降の事故については、これまでのFAXでなく、郵送でお願いします。

※事故日が三月三十一日までに

についても、二十二年度からの

「事故報告書」が届いた時点で、新しい「事故報告書」での報告をお願いします。

② 新しい事故報告書には、在学または在籍証明する箇所がありますので、学童の場合は、所属長印、PTA会員の場合は、会長印の押印を忘れないでお願いします。

#### ◎保険金の請求について

① 学校・園から本会宛に郵送された事故報告書は、本会から共栄火災に送付されます。

② その後は、共栄火災から請求者(保護者)宛に、請求書類が直送されます。

③ 提出された請求書類に不備がなければ、指定された口座に保険金が振り込まれます。もし、不備がある場合は、共栄火災から直接保護者に連絡します。

### 編集後記

新型インフルエンザ、季節性インフルエンザの流行はおさまったかに思われますが、これまで続けてきた手洗い・うがいの習慣は、確実に身に付けさせたいものです。油断大敵ということわざがありますが、予防こそ最大の防御となるのではないのでしょうか。

### 共栄火災

あしたの笑顔、ひとりひとりに。

今日よりあしたが素敵であるために。

大きな安心に包まれて、笑顔がもっと咲き誇るために。

わたしたちは一歩ずつ前に進んでいきます。

街に、暮らしに、あなたにスマイルを。

スマイル、前進！共栄火災



関根麻里

共栄火災海上保険株式会社

www.kyoeikasai.co.jp

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》共栄火災海上保険株式会社

〒960-0231 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル2F  
TEL 024-554-3006(代) FAX 024-554-3025